

令和元年度第2回小牧市こども自然体験活動事業委員会 議事要旨

《日 時》	令和元年9月19日(木) 午前10時30分～11時15分
《場 所》	小牧市役所 404会議室
《議 題》	令和2年度わくわく体験広場における事業(案)
《出席者》	委 員：山盛委員 伊藤(鉦)委員 伊藤(勝)委員 橋本委員 鈴木委員 清水委員 杉山委員 馬場委員 平手委員 事務局：鍛冶屋部長 櫻井次長 永井課長 小林係長 平野主事
《傍聴者》	0名
《会議経過》	以下のとおり

1 あいさつ

〔こども未来部長〕

委員の皆様のご協力のもと、今年度も身近な自然観察など順調に進んでおり、もち米づくりも稲刈りともちつきの開催を残すのみとなりました。自然体験活動はこども達にとって、地域の皆様や自然と触れ合うという日常とは異なる体験ができる点で大変意義のある事業であると考えます。来年度の事業計画につきまして、忌憚のない意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

2 議 題

令和2年度わくわく体験広場における事業(案)

- ・資料1に基づき事務局より説明

*委員から次のような意見があった。

●泥遊びの実施について

〔委員長〕 田植え前の田を利用した泥遊びであれば、田おこしにもなるため、魚とりの池ではなく、もち米づくりの田で行うこととしてよろしいか。

〔委 員〕 賛成

〔委員長〕 魚とりはこどもの日に行っていたが、泥遊びは田植えに合わせ、5月下旬から6月初旬ごろに行うこととしてよろしいか。

〔委 員〕 賛成

〔委員長〕 泥遊びの場を提供するだけとするか、イベント的なものにするのか。

〔委 員〕 初めてのことなので、まずはやってみると良いと思う。泥遊びをやっているところは、どんなことをやっているのか教えてほしい。

〔委 員〕 テレビで見るのは、ドッチボールやサッカーみたいなボール競技。

あとは、綱引きやかけっこなどのミニ運動会的なもの。横に滑り台を

作っても楽しめるのではないか。

〔委員長〕当日集まった子供に、何がやりたいかを聞くのではなく、事前にこういうことをやりますよと提示して、募集を行わないといけない。

〔事務局〕ホームページで調べたところ、玉入れや綱引き、親子で遊ぶことを目的として、お父さんが子どもをそりに乗せてひくといったものもあった。場所の提供だけではなかなか集客が見込めないと思うので、イベントを企画して募集を行いたい。

〔委員〕宝探しのなものも楽しいかもしれない。

〔委員長〕どのようなイベントを行うか事務局で案を作成して、次の委員会で提案していただきたい。

⇒魚とりの池ではなく、もち米づくりの田を利用した泥遊びを行うこととし、場を提供するのではなくイベントを開催することで承認を得られた。イベント内容については、詳細について検討を続ける。

●ハイキングの実施について

〔委員長〕秋ごろにやりたいということだが、講師やコースはどうするか。

〔委員〕今やってみえるので、橋本委員でいかがでしょうか。

〔委員〕光ヶ丘小学校の子を集めて、年に6回、学校にも協力してもらいながらやっている。小牧市の最高峰である天川山は私有地なので許可をとらないといけないが、小牧山以外にも小牧にはすばらしい山があるので、山の良さを知ってもらいたい。色んなルートが想定できるので、やれというならばやらせていただく。

〔委員〕兒の森は環境も整っているし、外周を散策するのはどうか。

〔委員〕兒の森はジュニアの子が散策しているが、自然体験事業として募集をする場合は、違う子が集まるので、それはそれで良いと思う。

〔委員〕市民四季の森から歩いて上がって、兒の森を歩くのは良いと思う。

〔委員〕どちらかというところ、子どもたちは道なき道をかきわけて進むのを楽しんでいる。市民四季の森と兒の森は熟知しているので、ルートはどのようにでも作成できる。

〔委員〕講師は決まったので、あとは募集の仕方や時期についてどうするか。

〔事務局〕紅葉の時期を想定して、秋ごろの開催を提案させていただいた。

〔委員〕子どもたちは特に紅葉にこだわる必要はないと思う。

〔委員〕時期的に上りやすいのは春か秋。

〔委員〕秋はイベントが多い。子どもたちは色々なイベントを楽しみたいので、イベントが重ならないときにしてあげたい。

〔事務局〕この委員会でやっていたじゃがいもづくりがなくなったので、春のイベントがない。秋の紅葉でも良いが、春の桜を楽しむ時期にやるのもいいと思う。

〔委員〕春だと兒の森はつつじもきれいに咲いている。

〔委員〕 兒の森活動グループは4月第3日曜日に親子で山菜を取りながら散策を行っている。

〔委員〕 色々なコースが想定できるので、毎年コースを変えても良いのではないか。

〔委員〕 人数が増えると列も長くなるので、危険が伴う。参加者は20人が限界ではないか。

〔委員〕 自然体験では、親子20組として募集をしているが、25組ぐらいに参加をいただいている。小さい子を連れて家族全員で参加される方もおり、1組4～5名ぐらいになっているが、お手伝いの方に協力いただいているので、なんとか怪我もなく実施できている状況である。どこまでを対象とするのか、スタッフを何人にするのか、前もって考えないといけない。大山川での自然観察は、親子ともどもすごく楽しんでいる。ハイキングの際に、川に入るといっても入れられると良いのではないか。

⇒講師として橋本委員。対象者や人数、コースなどについては、兒の森活動グループや、ジュニアセミナーの行事と重ならない時期で、講師と相談をしながら決めていくことで承認を得られた。

●その他の事業について

⇒報告どおりで承認を得られた。

3 その他

・魚とりの池は今後どうなるのか。

〔事務局〕 今後魚とりはやらないので、ゆくゆくは土地の所有者に原状復帰して田んぼに戻してお返しをすることになる。どのみち田に戻すので、田を利用して何か耕作をすることもできるとは思いますが、今は未定。

〔委員〕 せっかく池に造成したので、池の形で、水辺を利用した何かができないものだろうか。

〔委員〕 池を利用しないのなら、すぐに返却することになるのか。

〔事務局〕 池ともち米の田んぼは、2筆に分かれているが、同じ所有者なので、田んぼを借りている間は、池の土地も借りる予定である。

仮に池を埋めて田にし、耕作するとした場合、どこかに管理をお願いしなければならなくなる。

〔委員〕 畑の管理が大変だということで、じゃがいも作りがなくなった。

〔委員〕 あれは場所が悪く、トラクターが入れなかったのが大きな原因。池の場所であればどこからでも大丈夫だと思う。

〔事務局〕 田んぼの横にあるビオトープについても、整備が必要な時期に来ている。池を畑にすれば、隔年でも何かまた耕作できるものがあるかもしれないが、管理の問題もあるので、土地の所有者さんのご意向も伺

いながら、検討を進めていきたい。
⇒池の利活用について、次回委員会までに検討することとした。

・ 兒の森に植樹する種類について

〔委員〕 兒の森の中に中電が鉄塔を立てる。資材搬送用の道を造成するため伐採するので、復原の際にどの木を植えたら良いか、中電から兒の森活動グループに相談があった。ミツバツツジを提案したところ、県からは低木ではなく高木にしてほしいとリクエストがあったので、皆さんの意見をいただきたい。

〔委員〕 くるみ・どんぐりなどを植え、リスなどの動物が来るようにしたらどうか。

〔委員〕 リスだけではなく、イノシシもきてしまう。

〔委員〕 山桜もどうか。

〔委員〕 動物たちだけでなく、人間も楽しめるようにしたい。

⇒兒の森活動グループに一任することで了解を得た。

・ 本日いただいた意見を踏まえ、泥遊び、ハイキング等について内容を再検討し、12月1日のもち米づくり（もちつき）の後に開催する委員会で再度ご意見をいただくこととした。

・ 10月14日「もち米づくり（稲刈り）」の協力依頼をお願いした。

・ 兒の森の北東部にリニアの鉄塔が建設されるため、10月から兒の森の中を工事車両が通行することになり一部閉鎖される。工期は1年4ヵ月の予定。歩道については迂回路を設置し、安全を確保して工事を行うことを報告した。